



統合生命科学コース

認知行動科学コース

さまざまな履修パターンが可能

- 例① 主専攻: 数理自然科学コース 副専攻: 認知行動科学コース
- 例② 主専攻: 物質基礎科学コース 副専攻: スポーツ科学サブコース
- 例③ 主専攻: 統合生命科学コース 学融合プログラム: 進化認知脳科学

統合自然科学科進学希望者へのメッセージ



小泉英明氏 (1971 年卒)
日立製作所役員待遇フェロー

国産初の超伝導方式のMRI 磁気共鳴画像装置 (MRI) の開発プロジェクトリーダーを83年から務めました。MRIは超精密機械で磁場の均一性が100万分の1もの精度が要求されます。この難問に分野が異なる研究者たちをまとめあげ挑戦し、脳の中でどの部分が働いているかを測定できるようになりました。さらに、脳の働きをより簡単に測定する光トポグラフィーを開発しました。MRIでは被験者の動きが制限されますが、光トポグラフィーならより自然な状態で測定できます。この装置を利用し、医学関係者らの協力を得て、脳の発達段階を分析する国家的なプロジェクトを進めています。従来は文系の研究対象とされてきた「学習と教育」をサイエンスとしてとらえ、教育手法の研究などに寄与したいと考えています。新しいことへの挑戦には困難がありましたが、それを乗り越えられたのは、駒場で培われた広い視野と、特定の考え方にとられない自由な発想があったからでしょう。

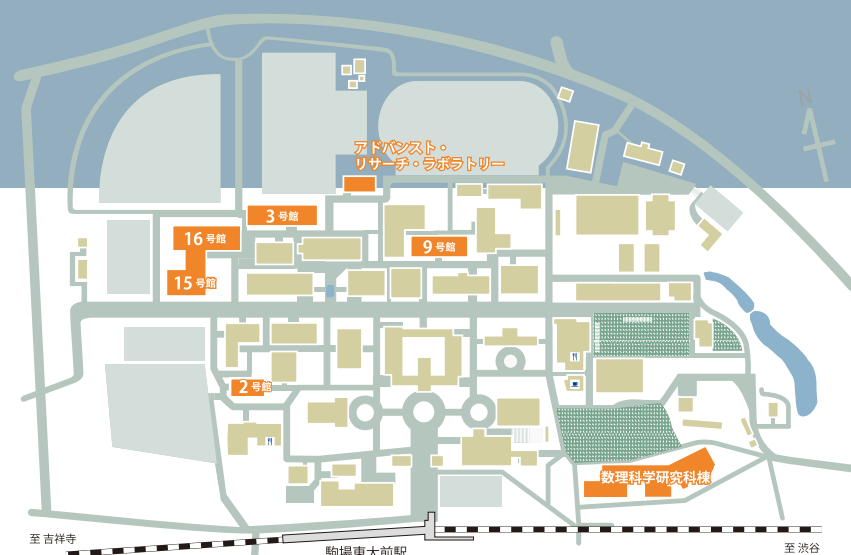
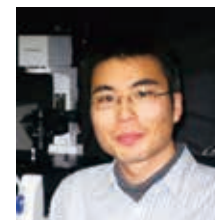
吉江路子氏 (2006 年卒)
大阪大学大学院生命機能研究科
日本学術振興会特別研究員

生命・認知科学科の授業では、分子から人間行動に至るまで幅広くかつ最先端の生命科学研究に触れることができ、そこで培われた総合的視点は現在の研究活動にも大いに役立っています。学部3年時よりオリジナルの研究テーマで実験や調査を行ったことで、早期から主体的な研究姿勢を身につけることができました。このことが、東京大学総長賞・日本学術振興会育志賞の受賞につながったのだと思います。多様な分野の研究者の集う駒場だからこそ、心理学と身体運動科学をつなぐ研究に取り組むことが可能となり、生涯の財産となるような貴重な人脈も得ることができました。学際的な生命科学研究を志す学部生の皆さんに、最適な教育・研究環境を提供する場として、自信をもって統合自然科学科をお勧めしたいと思います。



豊田太郎氏 (2000 年卒)
東京大学大学院総合文化研究科准教授
日本学術振興会特別研究員

縁あって駒場キャンパスで講義をしています。人生は本当に分からないもので、振り返ってみると、3つの“縁”が大切だと思います。1つ目は、同期の仲間との縁です。化学、物理学、数理と別々に関心をもつ基礎科学科(統合自然科学科の前身)の同期が集まっては騒いでいました。2つ目は、自分の興味と研究テーマとの縁です。この学科では学生より先生が多く、人工細胞の研究という最高の興味を見つけました。3つ目は、学科の先生方との縁です。有機物の物性化学、カオスの物理学、再生の生物学等、第一線に立つ先生方から温かいお声をかけて頂き、厳しい卒研生活を乗り越え、博士学位取得後も研究を続けることができています。このような統合自然科学科の縁が皆さんにも結ばれるよう、学科の教員の一人として頑張っています。

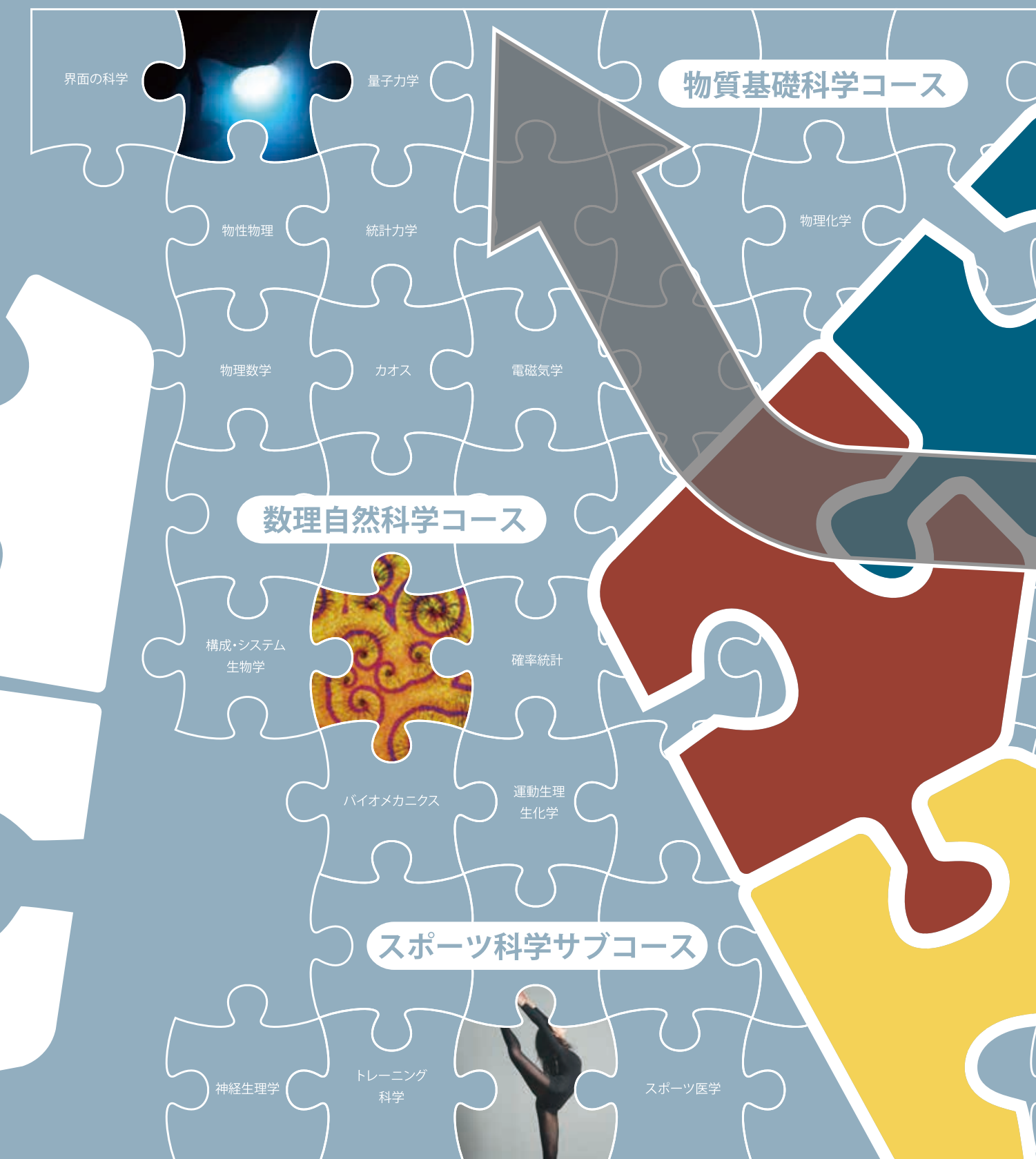


アクセス・連絡先

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
(駒場1キャンパス)
TEL(学科事務室) 03-5454-6058
<http://www.integrated.c.u-tokyo.ac.jp/>

Department of
Integrated
Sciences

Try to learn something about everything,
and everything about something.



物質基礎科学コース

数理自然科学コース

スポーツ科学サブコース

東京大学教養学部
統合自然科学科

<http://www.integrated.c.u-tokyo.ac.jp/>

- 数理自然科学コース
- 物質基礎科学コース
- 統合生命科学コース
- 認知行動科学コース
- スポーツ科学サブコース

自然科学全体を鳥瞰しながら、
先端分野の専門性を学ぶ

